2012年度

Ⅰ　世界史問題

注　意

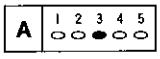
1．試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2．解答用紙はすべて**ＨＢの黒鉛筆またはＨＢの黒のシャープペンシル**で記入することになっています。ＨＢの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3．この問題冊子は**8ページ**までとなっています。試験開始後，ただちにページ数を確認してください。なお，問題番号はⅠ・Ⅱとなっています。
4．解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので，出席票の受験番号が，あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し，出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお，出席票は切り離さないでください。
5．解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し，その他の部分には何も書いてはいけません。
6．解答用紙を折り曲げたり，破ったり，傷つけたりしないように注意してください。
7．この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは，鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1．マークは，下記の記入例のようにＨＢの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2．１つのマーク欄には１つしかマークしてはいけません。
3．訂正する場合は消しゴムでよく消し，消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：



（3と解答する場合）

Ⅰ．次の文を読み，下記の設問Ａ～Ｃに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1939年９月，第二次世界大戦が勃発した。アメリカ合衆国は中立を宣言したが，優勢なドイツに対抗するために，1941年３月に（　イ　）法を成立させ，イギリスなど連合国に対する援助を始めた。アメリカはドイツがソ連に侵攻すると，（　イ　）法をソ連にも適用した。ローズヴェルト大統領は1941年８月，イギリス首相チャーチルとニューファンドランド沖で洋上会談を行い，戦後構想の原則として（　ロ　）を発表した。アメリカは12月，日本の真珠湾攻撃を契機に正式に参戦した。連合国は1942年１月，（　ロ　）を基礎に連合国共同宣言を発表し，枢軸国を打倒するために相互協力を約束した。アメリカはその豊かな経済力をもとに，連合国に莫大な援助を与えたばかりか，太平洋とヨーロッパの戦線に大量の軍隊を送り，連合国の勝利に大きく貢献した。ローズヴェルトはチャーチル，ソ連のスターリン，中華民国の（　ハ　）をはじめ連合国の首脳と協力して大同盟を指導し，とくに英ソの首脳とは，1943年の＜　あ　＞会談と1945年のヤルタ会談を開催するなど，三大国の協調を重視した。アメリカは他の連合国とともに，1944年，戦後の国際金融・経済問題を（　ニ　）で，新しい国際平和機構である国際連合（国連）の設立[1)]をダンバートン＝オークスで協議した。第二次世界大戦は1945年８月に日本が降伏し，最終的に終結した。

米ソ両国は戦争が終わると，ドイツなどヨーロッパ諸国の戦後問題をめぐって激しく対立した。いわゆる冷戦の始まりである。アメリカは，1947年のトルーマン＝ドクトリンで，ギリシアと（　ホ　）に対する援助を発表し，次いで西ヨーロッパ経済を再建するためにマーシャル＝プランを打ち出し，さらに1949年には西ヨーロッパ諸国との間で北大西洋条約機構を結成[2)]した。ヨーロッパ冷戦の最前線に立つドイツは1949年秋までに東西に分裂し，東ドイツと西ドイツという二つの国家が成立した。

冷戦はアジアにも波及した。中国では，国民党と共産党が1945年10月に（　ヘ　）協定を結び，平和的な統一をめざしたが，内戦が再び始まり，1949年10月に中国共産党政権が成立した。中華人民共和国はソ連圏に属する立場を鮮明にし，1950年２月に中ソ友好同盟相互援助条約[3)]を締結した。冷戦は1950年６月，朝鮮半島で熱戦に転じた。アメリカは，朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の侵攻を受けた大韓民国（韓国）を軍事支援し，北朝鮮を支援する中国と激突した。ベトナムでは，フランスからの独立をめざすベトナム独立同盟がベトナム民主共和国の独立を宣言し，武力闘争を展開した。

アメリカは1950年代前半，東アジア・太平洋地域の日本，（　ト　），オーストラリア，ニュージーランド，韓国，台湾と安全保障条約や相互防衛条約を結んで，共産主義諸国に

対抗した。朝鮮では1953年に，ベトナムでは1954年に休戦協定が成立したが，アメリカは休戦協定後にベトナムから撤退したフランスに代わって介入を始めた。アメリカは北緯17度線以南のベトナム共和国を支持し，やがて＜　い　＞大統領がトンキン湾事件後，本格的な軍事介入を始めた。しかしベトナム介入は泥沼化し，その多額の戦費はアメリカ経済に重い負担を課したばかりか，国内で反戦運動が高揚した。苦境に陥ったアメリカは事態を打開するために，ベトナム民主共和国を援助するソ連と中国に対する新たな外交に乗り出した。とくに朝鮮戦争以来極度に悪化していた中国[4)]との関係は，ニクソン大統領の1972年の訪中[5)]によって急速に改善した。ニクソンはさらに，ソ連[6)]との緊張緩和を進めた。

ヨーロッパでは，1950年代末にフランス大統領に就任したド＝ゴール[7)]が独自の外交政策を展開し，1960年代末に成立した西ドイツの＜　う　＞政権は東方政策（東方外交）[8)]を推進した。ヨーロッパでの緊張緩和，東西関係の改善の頂点が，アルバニアを除くヨーロッパ諸国とアメリカ，カナダが1975年に合意した＜　え　＞宣言であった。冷戦時代の国際環境は大きく変容しつつあった。

A．文中の空所(イ)～(ト)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B．文中の空所〈あ〉～〈え〉にあてはまる適当な語句を，それぞれ対応する次のａ～ｄから１つずつ選び，その記号をマークせよ。

〈あ〉	ａ．カイロ	ｂ．テヘラン	ｃ．ポツダム	ｄ．モスクワ
〈い〉	ａ．アイゼンハワー	ｂ．カーター	ｃ．ケネディ	ｄ．ジョンソン
〈う〉	ａ．アデナウアー	ｂ．コール	ｃ．シュミット	ｄ．ブラント
〈え〉	ａ．ヘルシンキ	ｂ．モスクワ	ｃ．ロンドン	ｄ．ワシントン

C．文中の下線部１)～８)にそれぞれ対応する次の問１～８に答えよ。

１．国際連合に関する記述として正しいものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．北朝鮮が1990年代はじめに加盟した

ｂ．国連憲章を採択したサンフランシスコ会議には中立国も参加した

ｃ．常任理事国の数は設立以後，増加した

ｄ．マレーシアが1960年代なかばに脱退した

2．アメリカがヨーロッパ諸国と同盟関係に入るのは，独立戦争以来のことである。独立戦争時にアメリカが同盟を結んだ国を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．オランダ　　ｂ．スペイン　　ｃ．フランス　　ｄ．ロシア

3．中国がこの条約の廃棄を通告した年として正しいものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．1959年　　ｂ．1969年　　ｃ．1979年　　ｄ．1989年

4．1970年代前半の中国に関する記述として正しいものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．国連加盟が実現した

ｂ．中ソ対立が国境紛争に発展した

ｃ．文化大革命が起きた

ｄ．「四つの現代化」政策を推進した

5．ニクソンの中国訪問の前年に，北京を秘かに訪れたアメリカ大統領補佐官の名をしるせ。

6．当時のソ連の最高指導者を，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．コスイギン　　ｂ．ゴルバチョフ　　ｃ．フルシチョフ　　ｄ．ブレジネフ

7．ド＝ゴールが米ソ中心の国際秩序に対抗するために展開した外交政策を２つしるせ。

8．西ドイツが進めた東方政策（東方外交）について正しくないものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．西ドイツと東ドイツは双方の主権を承認した

ｂ．西ドイツと東ドイツはともに国連に加盟した

ｃ．西ドイツはソ連と外交関係を樹立した

ｄ．西ドイツはポーランドの西部国境を承認した

Ⅱ．次の文を読み，下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

14世紀なかばごろのユーラシア内陸部は，モンゴル帝国の解体により分裂の時代を迎えた。1368年，明朝に中国を追われモンゴル高原に帰ったモンゴル人は，モンゴル高原を統一できなかった。14世紀前半に最盛期を迎えた南ロシアのキプチャク＝ハン国はその後混乱状態に陥った。イランの（　イ　）は地方小政権に分裂し，トルキスタンのチャガタイ＝ハン国もほぼパミール高原を境に東西に分かれていた。この分裂状況を収拾し，モンゴル人に再び栄光をもたらしたのがティムールである。彼は13世紀初頭チャガタイ＝ハンとともにモンゴル高原からトルキスタンに移住したモンゴル人貴族たちの子孫のひとりであった。彼らは移住から時を経るうちに，言語面ではトルコ化し，宗教面でもイスラーム化していたが，勇猛果敢なモンゴル遊牧民の血をなお失っていなかった。

ティムールは1370年，西トルキスタンの統一を達成すると，明への遠征の途上1405年[1)]に病没するまで絶え間のない征服戦争を敢行した。彼はオスマン軍を破り，マムルーク朝の領内にも侵入するなど大戦果をあげ，東は中国の西辺から西は小アジアまで，南は北インドから北は南ロシアの草原地帯にいたる大帝国を建設した。首都の（　ロ　）やヘラートを舞台に華やかな宮廷文化が栄え，15世紀後半には，それまでアラビア語やペルシア語に比べて平俗な言語と見なされてきたトルコ語の地位が高まった。

しかしティムール没後の帝国では代がわりのたびに争いが起こって国力が弱まり，ティムール時代の版図は徐々に縮まった。1469年第７代君主が没すると，帝国は２つの政権に分裂し，1507年までに，両政権とも＜　あ　＞族のシャイバーン朝に滅ぼされた。

キプチャク＝ハン国はティムールの後ろ盾によって1378年再統一を果たし，ティムールが死去した後もティムール朝の影響下にあった。しかし15世紀なかば以降，ティムール帝国の衰退とともにキプチャク＝ハン国は分裂を重ね，カザン＝ハン国，クリム＝ハン国[2)]，アストラハン＝ハン国などが形成された。同じころ東地中海では，オスマン朝が小アジアとバルカン半島北部を支配する一大勢力となっていた。

もともとオスマン朝は，13世紀にモンゴルの進出によりルーム＝セルジューク朝が崩壊したあと小アジアに多数成立したトルコ系小国家のひとつであった。この国家は小アジアに残ったビザンツ帝国領を征服してブルサに首都をおき，さらにバルカン半島に進出するとアドリアノープルを征服して首都を移した。第４代スルタンの（　ハ　）は，ハンガリーを中心に結成された西欧諸国の連合軍を1396年ニコポリスの戦い[3)]で破り，バルカン半島の大部分を支配下においた。しかしこの第４代スルタンが1402年，＜　い　＞の戦いでティムールの捕虜となり翌年死去すると，オスマン朝は一時的に内戦状態に陥った。その後

ティムール朝の勢力後退とともにオスマン朝は急速に失地を回復し，ついに1453年，第7代スルタンのメフメト2世の時にコンスタンティノープルの占領に成功してこれを首都とすることで，地中海世界の雄となったのである。

こうしたオスマン朝の軍事的成功に大きく貢献したのがイェニチェリであった。イェニチェリは，領内のキリスト教徒子弟を徴用しムスリムに改宗させる制度[4)]によって養成されたスルタンの奴隷の軍隊で，火砲を主要な武器としたため，騎兵を主とする他国の軍を圧倒した。第9代スルタンのセリム1世は1514年チャルディランの戦いで新興のサファヴィー朝を撃退し，1517年にはマムルーク朝を滅ぼしてその版図を支配下に収めた。続くスレイマン1世は，バルカン半島[5)]を北上してハンガリーの大部分を併合し，ハプスブルク家と対立した。1529年には第1次ウィーン包囲[6)]をおこなって，ヨーロッパに脅威を与えた。

オスマン帝国と西アジアで対立したサファヴィー朝もまた，ティムール朝の衰退とともに台頭した王権である。アゼルバイジャンのトルコ系遊牧民の間に過激な神秘思想を広めていたサファヴィー教団の教主イスマーイール1世は，その遊牧民の軍事力によってイランを平定し，1501年（　ニ　）を首都としてサファヴィー朝を開いた。広大な領土を獲得すると王朝は過激な宗教政策からの脱却をはかり，より穏健なシーア派の十二イマーム派[7)]を国教としてイランへの布教を進めた。以後イランでは徐々にシーア派が主流となり，オスマン朝など隣接地域のスンナ派と対抗する中でイラン人としての一体感が育まれた。

宿敵セリム1世の火砲に鋭鋒を折られるまで無敵を誇った英雄イスマーイール1世が1524年に死去すると，サファヴィー朝はオスマン帝国やシャイバーン朝に一時勢力をそがれたが，第5代の王（　ホ　）のもとで復興した。この王はグルジア・アルメニア出身の騎兵や宮廷官僚を積極的に登用するとともに，イラン系軍人の火砲装備を充実させるなどの改革を進めて，オスマン帝国から一時イラクを奪回し，＜　う　＞勢力をホルムズ島から追い出すなど，軍事的な成果を上げた。新たに首都に定めた（　へ　）を壮麗な建築物で飾り，国内産業も育成して交易を盛んにした。

ティムール朝衰退の余波は南アジアにも及んだ。ティムールの5代目の子孫で，母方からチンギス＝ハンの血をひくともいわれる，西トルキスタンのフェルガナの領主[8)]は，シャイバーン朝に滅ぼされたティムール朝の再興をめざした。しかし勇戦むなしく敗れ，1504年アフガニスタンの都市（　ト　）に逃れてこの地に小王国を築いた。ここを拠点に，オスマン朝出身の砲術師や火縄銃師を雇って軍備を整え，北インドへ遠征を繰り返した彼は，1526年ついに＜　え　＞朝軍を粉砕してデリーに入城し，ムガル帝国の端緒を築いたのである。

A．文中の空所(イ)～(ト)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B．文中の空所〈あ〉～〈え〉にあてはまる適当な語句を，それぞれ対応する次のａ～ｄから１つずつ選び，その記号をマークせよ。

〈あ〉 ａ．ウイグル　ｂ．ウズベク　ｃ．オイラト　ｄ．タタール

〈い〉 ａ．アンカラ　ｂ．コソヴォ　ｃ．パーニーパット　ｄ．モハーチ

〈う〉 ａ．イギリス　ｂ．オランダ　ｃ．スペイン　ｄ．ポルトガル

〈え〉 ａ．ゴール　ｂ．サイイド　ｃ．ハルジー　ｄ．ロディー

C．文中の下線部１)～８)にそれぞれ対応する次の問１～８に答えよ。

１．この当時の明の皇帝である永楽帝の治績として正しくないものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．黄帽派と結んでチベットに勢力を伸ばした

ｂ．５度にわたりモンゴル親征を行った

ｃ．陳朝崩壊後のベトナムに侵攻した

ｄ．南京から北平に首都を移し，名を北京と改めた

２．クリム＝ハン国をロシアに併合したツァーリは誰か，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．アレクサンドル１世　ｂ．イヴァン４世

ｃ．エカチェリーナ２世　ｄ．ピョートル１世

３．このときのハンガリー王ジギスムントはやがて神聖ローマ皇帝となり公会議を提唱，その公会議でウィクリフとフスが異端宣告された。この公会議の場所として正しいものを，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．エフェソス　ｂ．コンスタンツ　ｃ．トリエント　ｄ．ラテラノ

４．この制度をトルコ語で何というか。その名をしるせ。

５．マムルーク朝の版図を引き継いだことは，オスマン帝国にとり，宗教的にいかなる意味をもったか。１行でしるせ。

６．このときオスマン軍の攻撃からウィーンを守った人物はカール５世の弟で，兄の退位後神聖ローマ皇帝位を継いだ。この人物は誰か，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ハインリヒ４世　ｂ．フェルディナント１世

ｃ．フリードリヒ２世　ｄ．マクシミリアン１世

7．この派ではムハンマドの女婿アリーとその子孫の12名のみがイマーム（無謬の指導者）で，第12代イマームは874年以降「隠れ」の状態にあり，マフディー（救世主）として世の終末に再臨し正義を確立するとされる。マフディーを待望する思想はイスラーム教の草創期から現代に至るまで，現状打破を求める社会運動とくりかえし結びついてきた。19世紀末，みずからマフディーを称し，スーダンで反英闘争を指導した人物は誰か，次のａ～ｄから１つ選び，その記号をマークせよ。

ａ．ウラービー　　ｂ．サモリ＝トゥーレ

ｃ．ムスタファ＝カーミル　　ｄ．ムハンマド＝アフマド

8．この人物は君主として有能であったばかりでなく文人としても秀でており，素直な描写で知られるその回想録は，トルコ語散文の傑作とされている。この回想録は何と呼ばれるか。その名をしるせ。